

還暦に思う

私も今月で満60歳になります。昔は人生50年と言ったそうですから、還暦を迎えるということは長生きを素直に喜ぶべきことなのでしょうが、とても赤いちゃんちゃんこを着る気にはなれません。時折事務所の東の川沿いの道を散歩しているお年より(何時でも自分より年上がお年より)と立ち話をして、『おいくつですか?』と聞かれて「60です」と答えると、『まだまだお若くていいですねえ』と言われます・・・???



事務所に戻ってくると一番若い職員が26歳・・・とても若々しくて一緒にいるだけで嬉しくなってしまう。やっぱり若いって素晴らしい・・・無条件にそう思います。

私が26歳のときは、会社では将来有望(?)な社員として希望に満ち溢れ、家に帰れば新婚ホヤホヤで幸せいっぱいでした。何もかもが楽しくて充実した毎日でした。安月給のサラリーマンではありましたが、貧しいことはさほど気にはなりません。それよりも明日あさって、来年再来年の自分を想像する希望に燃えていたように思います。そんな希望と夢を支えに、気がついたらいつの間にか60歳を迎えてしまった・・・そんな感じがします。

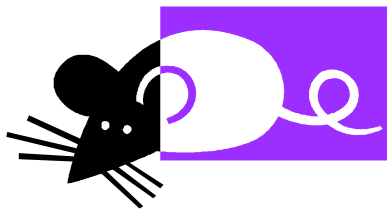
ところで人間の寿命は120歳だとも言われます。還暦は神から与えられた寿命の半分、残りの60年を生き抜く人は皆無に近いわけですが、あと何年生きられるかはどのようにして決まるのでしょうか??そして、どのように生きて行ったらいいのでしょうか??

ここまで本当に顧問先の皆様や社員に支えられ、大きく道を踏み外すことなくやって来ることができました。これから皆様にどれだけ恩返しができるかわかりませんが、感謝の気持ちを決して忘れることなく・・・でも今までの私を失うことのないよう(ご迷惑ですが)努力して参りたいと思います。

合掌

朝は笑顔で握手して挨拶しましょう!

笑顔で利他行!



平成20年6月1日

知久会計センター ねずみ年の所長 知久正博